

平成27年度第1回放送番組審議会 議事録

- 開催日時 平成27年9月11日（金）14時から15時
- 開催場所 三次市防災センター 1階会議室
- 出席者委員 元泉園子・添田龍彦・福永清三・湯藤浩康・重信富子・前田茂
- 欠席者委員 岩本智建・宗清弘樹・箕田英紀・山岡幸子・岩崎積
- 説明員 (株) 三次ケーブルビジョン
田坂代表取締役社長・新宅専務取締役・山光管理部長・野田制作部長
林技術部長・津田制作課長・幸住管理課長補佐・坪井技術課長補佐
- 1 開 会 定刻になり事務局が開会を宣言。行政関係機関及び住民自治組織団体代表委員の交替を報告。新委員（福永清三氏）に対して、代表取締役社長が放送番組審議会委員の委嘱状を交付、続いて代表取締役社長が開会にあたって挨拶する。
- 2 会長挨拶 元泉会長が挨拶を行ない、よりよい番組作りの役に立てるように、委員の皆さんの貴重な意見を頂戴したい。本日は少人数ではあるが、多くの意見を出していただきたいと述べた。
- 3 審 議 審議に先立ち、制作部長が「あっちこっち三次」の木曜レギュラーコーナー『突撃！おじゃまTV 青春部活動編・悠々編』について企画意図及び番組概要を説明し、番組のDVDを上映する。
- 会長(司会) 番組内容について、DVDを参考に忌憚のない意見を願います。
- 委 員 地元の高校について、子どもや孫が通っていれば関わることもあるが、そうでないと一般市民には関わりがない。この番組を通じて、高校生がどんな思いで、どんな活動をしているかがわかった。高校生達が色々な希望を持って、部活動に取り組んでいる姿が、大変清々しく感じられた。
悠々編の方は、高校生よりずっと年齢の高い方の活動紹介であったが、年齢に関係なく、「もっと飛躍したい」と前向きな思いを持って居られて、そういう生き方に感動させられた。
- 委 員 学生が生き生きと部活動をしている状況がよくわかった。少子高齢化で、中

学校や高校で、部活動そのものの存続が難しい現象もあるので、学校の PR ができているのかなと感じた。

書道サークルは、地域での生きがい対策として、活動されている様子がよくわかった。

委員 番組内のインタビューを、キャプテンや指導講師が（聞き役を）するのは、メンバーが話し易くて気持ちがよく伝わってくる気がした。高齢者と青少年を取り上げる組み合わせは、それぞれの世代の様子を知ることが出来て、良かったと思う。

委員 番組内容が工夫されてきており、進化していると感じる。市内の高校も、ショッピングセンターなどで自分達の活動を積極的に情報発信している。毎年開催している青少年育成大会では、高校生に将来の夢や考えを発表してもらう場があり、そこで今の高校生の姿を目にすることができる。加えて、こうした番組で、部活動中心に市民に発信してもらうことは、高校生には良い刺激になりやる気を起こさせると思う。見ている人も、頑張っている高校生の姿に、元気をもらえて、大変良かったと思う。

突撃インタビューすることにより、クラブやサークルの個性や考え、様子がよりよく伝わったと思う。悠々編では、参加されている高齢者の皆さんが、輝いて生活されていることがわかった。サークルは他にもたくさんあるので、私達のサークルにも取材に来てほしいと思った。

委員 青春部活動編の企画意図には、部活動を見せたいとあるが、この映像だけ見れば、生徒数の少ない高校の様子が窺えた。背景に他のクラブの生徒や、歩いている生徒の姿が見えない、寂しい映像として映った。部活動紹介だが、見る側としては、県北の高校の状況として意識するので、もう少し活性化してくれたら、という思いで見た。映像の背景にも配慮して制作してほしい。

悠々編は、年配の方が熱心に作品作りに取り組んでおられる活動の紹介でそれぞれの地域で素晴らしい文化活動や生涯学習をされている。そうした練習風景や作品の作成風景だけでなく、作品の展示会の様子も紹介があったら、良かったと思う。昨年の展示会の風景を入れたりして、見ている人が「行ってみよう」と思うところまで枠を広げられたら、違ったのかなと思う。

委員 部活動編のなかで、男子生徒が陸上選手の名前を言い間違えた箇所があり、言い直した部分そのまま放送された。名前を間違えたことは悪気があったわけではないが、個人名であるので、訂正した名前だけを放送してもよかったの

では、と思った。名前を間違えられた選手のことを思うと、あのカットはどんなのかなと思う。

悠々編の映像のなかで、成果発表の場についての、もっと詳しい情報があってもよかったのではないかと思った。せっかく一生懸命取り組んでおられるので、成果発表の部分にも、もっと光が当たるように、一人でも多くの方がこの番組を見て「よし、行ってみようか」と思うような作り方をしていただけたらよかった。

会長（司会） ほかの委員の意見を聞かれて、気づいた点等あれば、出してほしい。

委員 「青春部活動編」は高校生を取り上げているが、中学生は対象としないのか。

社側 （中学生は対象としていない。）（別のコーナーで）小学生の遠足を取り上げたり、幼稚園にも取材に行っている。

委員 日彰館高校陸上部は、三次駅伝で4連覇していると紹介されたが、40回近い大会の歴史があるので、過去に遡って成績を紹介したら、部活の宣伝にもなり、もっと元気が出るのではないかと思う。県北の中高一貫校とか、高校のキャリア教育の充実など、高校の質や団結を高めようとする動きがある。そういう関係者にも、インタビューに加わってもらえれば、広がり生まれるのではないかと思った。

委員 この番組のスパンはどれくらいか。

社側 日彰館高校の書道部から始まって、順に紹介している。文化系も含めて、あまり知られていないクラブを取り上げさせてもらっている。スパンとしては特に決まっていないが、「じゃまテレ（突撃！おじゃまTV）」が高校生の間に浸透して、各高校で話題に上り、いい意味で他校との競い合いが出てくれば、紹介するクラブが無くなるまで続けようかという思いがある。

会長（司会） 高校生達の反応はどうか。この番組を見ているのだろうか。

社側 最初の頃は、取材時にスタッフが聞いてみたら、見ていない状況だった。回を重ねてきたので、今は徐々に浸透してきているのかなと思う。高校によってそれぞれ得意分野があるので、高校側から「これを出してほしい」とか、大会が近づいてきたら、頑張っている姿を紹介してほしいという声もいただく。自

校を紹介し、PRできることもあり、今までも要望をいただいていた。当社側と高校側の思いが、うまくまとまって協力してもらっているので、取材もやり易くなっている。先程、映像の背景が寂しいという意見があったが、何本か見ていただくと一つの高校でも幅広いクラブがあることが判っていただけだと思う。高校生と言えども、私達が思っている以上に、いろいろ違った面があることを、この番組を通して見ていただけるのでは、と思う。

会長（司会） 我が子は卒業しているので、在学中に（このような番組が）有れば良かったと思っている。我が子が部活動をしている姿は、保護者は見ることがない。吹奏楽部であれば、コンクールや文化祭など、本番を迎えている姿しか見ることがないので、そこに到達するまでの頑張っている姿を見せてもらえるのは、親としては非常に嬉しい番組である。是非この企画を続けて、全てのクラブの生徒が紹介されるといいなと思った。

社 側 制作者側から言わせていただくと、こうした学校の取材は、なかなか難しい。内部に入って、本当に自然の姿を表そうとすると、どうしても構えてしまったり、「ここを出しては困る」と言われたりする。それをこのように生き生きと自然のままに表現できている。スタッフの力量がずいぶんついてきていると嬉しく思った。書道教室の方も、マイナーなところは、なかなか取材に行けないが、地域に密着した形で、こうしたサークル活動を紹介できている。サークルや教室のメンバーの自然な感情が表現できている。スタッフの取材力、交渉力がついてきている結果と感じていただけたらと思う。

会長（司会） スタッフが現場によく溶け込んでいると感じた。事前にしっかり勉強されて取材に行かれているのだと思う。

社 側 こうした作品をどんどん制作することによって、1本のまとまった番組を作り、一つの高校の「今」を紹介するドキュメンタリー作品を作ることも可能になると思う。

会長（司会） 例えば文化祭などで、そういうまとまった番組を見せてもらえると保護者は嬉しい。

委 員 突撃取材という形だが、インタビューに対して、皆さんがよく答えられているなと感じた。私も先日、市民ホールで開催した広島県の身体障害者福祉大会を取材してもらった。閉会式の後に、突然のインタビューを受けたが、やはり

少し緊張した。うまく編集していただいて助かったが、皆さんすんなり答えられているのだろうか。

社 側 私も高校生のインタビューを聞いて、自分が高校生の時と比べて、あんなに頑張っていなかったし、突撃のインタビューに対して、ここまで答えられたかなと思った。また、悠々編の方は、もう少し年をとった時に、自分には何か発表できる趣味のようなものがあるだろうか、考えた。とても刺激的な番組であった。

委 員 三次で文化的事業を起こす時に、練習風景から本番までをまとめて、30分程度の番組を収録してもらうことは可能だろうか、また、どういう手続きが必要なのか。

社 側 素材にもよるが、事前に相談していただければと思う。できるかどうか判断したい。

委 員 私は、以前から「いのうもののけ」のオペラ上演に関わってきた。この度、再演になったが、練習段階から本番の上演までに1年くらいかかった。そういう経過のある題材を、いいと認めていただければ、30分程度にまとめた作品を作ってもらうことは可能なのか聞きたい。

社 側 誰かターゲットを決めて成長過程を追いかけるとか、ある程度ポイントを絞ると可能かもしれない。

委 員 人物を絞って、成長過程をストーリーとして表現するようなものなら可能だろうか。三次の宝になるようなドキュメンタリー的なものを作ってほしいと、前から思っていた。

委 員 悠々編で紹介されたように、各地域で文化教室が色々あるが、昔からの技の文化を取り上げてもらいたい。木工教室や炭焼教室など三次独特の、作る技の文化の紹介を交えてもらえると面白いと思う。

社 側 確かに、昔からの技がどんどん無くなってきている。そういったものを記録として残していくことは、ローカル局の務めかと思っている。

会長（司会） 皆さんの意見が出揃ったようだ。本日も貴重なご意見をいただき、感謝する。これで放送番組審議会を終了する。

- 4 閉 会 事務局が本日のニュース番組「情報ストリート、あっちこっち三次」で、この審議会の模様を放送し、議事録を HP に掲載することを伝え、閉会した。